







# 令和5年 **9**月の大阪森林便り

## 目次

### 9月の木の話 木製バットの特徴

- (1)  森林税、国と地方で「二重取り」
- (2)  合板価格、下げ止まり 国産は減産、輸入量4割減
- (3)  建設資材に下げ圧力 住宅用木材、1年で半値に
- (4)  山林、31年ぶり値上がり 放置林活用は道半ば
- (5)  国産ヒノキ材8%安 8月前年比 ハウスメーカー敬遠
- (6)  国産木材、供給量2倍に 20年前比、林野庁調べ



### 9月の木の話 木製バットの特徴

\*木製バットには、メーカーのマークや製品名がバットの板目面に表示されません。

\*メーカーのマークや製品名を手前にしてバットを構えて打つと、バットが折れにくくなります。

\*木材の曲げに対する強さは一般に比重（密度）が大きいほど強く、板目面に荷重をかけたときよりも柀目面にかけたときの方が強くなります。

\*野球のバットでボールを打つとき、バットに瞬間的に大きな曲げ荷重がかかります。

\*ボールを柀目面に当て、しかもバットの芯でボールをとらえていれば、それだけバットは折れにくくなります。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)

### (1) 森林税、国と地方で「二重取り」

#### 2024年度から1000円課税、配分先行も450億円未活用

\*2024年度に国は森林整備のための新税「森林環境税」を導入し、国民に一律で年間1000円を課します。

\*神奈川や大阪など37府県では既に独自の森林税を設けており、二重の負担に。

\*年間600億円の森林環境税収は全自治体に配られます。

\*国は課税に先立ち、2019年度から臨時財源で譲与税を自治体に支給しています。

- \*配分額は私有人工林面積、林業就業者数、人口の3つの基準で決まります。
  - \*活用額は全国的に増加傾向。
  - \*2019~2022年度の4年間、全国でも使われずに残る積み立て・繰越額は約450億円。
  - \*森林環境税は、東日本大震災復興に伴う増税措置のうち2023年度末に期限切れとなる住民税への1000円上乗せ分と入替で始まります。
- (2023年8月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 合板価格、下げ止まり 国産は減産、輸入量4割減

- \*8月時点の価格は、国産針葉樹合板が4月に比べて13%安。
  - \*輸入品も10%下がっています。
  - \*国産針葉樹合板の6月の生産量は、前年同月比19.5%少なくなっています。
  - \*6月の輸入量も前年比で4割減りました。
  - \*6月の木造住宅着工戸数は、前年同月比6.4%減。
  - \*今後の価格見通しについて、当面は横ばいとの見方。
- (2023年8月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (3) 建設資材に下げ圧力 住宅用木材、1年で半値に 需要低迷 鋼材も荷動き低調

- \*集成材の東京地区の価格は、4月に比べ14%安。
  - \*集成材は2021年秋~2022年夏に過去最高値をつけました。
  - \*現在はほぼ半値。
  - \*6月の木造住宅の新設着工戸数は前年同月比6.4%減と、15カ月連続のマイナス。
  - \*住宅自体の価格が高騰。消費者の購入意欲が低下。
  - \*H形鋼は4月契約分で2.4%値上げした後、5カ月連続の据え置き。
- (2023年8月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (4) 山林、31年ぶり値上がり 放置林活用は道半ば 木材高警戒・脱プラで需要増

- \*国内の山林取引価格が31年ぶりに上がりました。

\*2022年、製材用木材が植林されている「用材林地」が前年比2円値上がり。  
\*山林は木の価値で評価されます。  
\*2022年の国内の杉の「立木価格」は、前年比1.6倍。  
\*2002年に19%だった木材自給率は、2021年に41%。  
\*戦後に大量植林された杉が伐採期を迎えています、手入れの放棄も多くなっています。  
\*日本は国土の7割が山林で、うち4割が人工林。  
\*所有者不明の物件の2016年時点調査では、宅地は14.0%、農地は18.5%、林地は25.7%。  
\*国も森林整備の財源となる森林環境税を導入し、花粉症対策を掲げて杉の伐採・活用の促進策を打ち出します。  
(2023年8月24日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (5) 国産ヒノキ材 8%安 8月前年比

### ハウスメーカー敬遠

\*柱に使う桧正角の8月の流通価格は、東京地区で7月比1%値下がり。  
\*前年同期比8%安。  
\*杉正角の流通価格は7月から横ばい。  
(2023年8月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (6) 国産木材、供給量2倍に 20年前比、林野庁調べ

### ウッドショックで加速

\*国産木材の国内で流通した量は、最近20年間で約2倍に。  
\*2021年には3372M3使われ、2020年比で約1割増加。  
\*2001年比では9割多くなっています。  
\*流通量全体に占める国産の自給率は約4割。  
\*過去最低だった2002年の2倍以上。  
\*1970年代以来の水準に回復。  
\*木材に使える「森林資源」は、1966年から2020年までの50年超で約6倍に。  
\*林業従事者は1980年代の3分の1に。  
\*林業従事者の年間平均所得は、全産業の平均を90万円程度下回ります。  
(2023年8月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)